

NGO-JICA 勉強会のおしらせ（ウェブ掲載）

【参加者募集】NGO-JICA 勉強会「共創で変わる国際協力：NGO と多様なアクターの連携実践」

国際協力の現場では、様々なアクターがそれぞれの強みを活かして活躍しています。例えば、NGO は地域に長く深く根ざし、コミュニティの声を聴きながら、課題を解決するモデル作りや現場力に強みがあります。また、大学・研究機関や開発コンサルタントは、専門性に基づく分析力やエビデンスに基づく実証活動、また政策提言や制度作りなどの仕組み化に優れています。

両者が現場で相互補完しながら協働することで、よりよい課題解決やインパクトの発現が期待できます。しかし、現実的には NGO と大学・研究機関、あるいは開発コンサルタントの連携事例は、一部に留まっているのが現状です。

そこで、本勉強会では、NGO と他業種のアクターとの連携の好事例を、2 回のシリーズで紹介します。どのようなきっかけで連携が生まれ、どんな協働の工夫があったのか、事例から得られる気づきや実践的なヒントを共有し、参加者の皆さんと一緒に、今後のより良いパートナーシップのあり方を考える場とします。ぜひご参加ください。

○こんな方におすすめです

- ・ NGO、大学、開発コンサルタントとの連携事例に关心のある方
- ・ 国際協力事業における「共創」の実践について学びたい方
- ・ 他組織の視点や経験を、自身の活動に活かしたい方

○開催概要

- ・ テーマ：共創で変わる国際協力：NGO と多様なアクターの連携実践
- ・ 対象 NGO、開発コンサルタント、大学・研究機関関係者、JICA 担当者 等
- ・ 参加費 無料（事前申込制）
- ・ 開催方法 オンライン（Microsoft Teams）

・ 日程・内容

第1回：NGO×大学・研究機関

2026年2月18日（水）17:00～18:30

第2回：NGO×開発コンサルタント

2026年3月6日（金）15:00～16:30

○事例・登壇者

第1弾「NGO×大学・研究機関」

- ・NPO側：NPO法人アジア砒素ネットワーク
- ・研究機関側：東京大学、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
「稲の安全性と高栄養価に貢献する育種および水管理技術の開発」

バングラデシュにて、ヒ素を抑えた安全なコメと、鉄・亜鉛を多く含む高栄養価コメの育種・栽培技術を確立し、国民の健康向上を目指す研究プロジェクト。上記研究機関により実施中のJICAのSATREPS事業の中で、バングラデシュで長年ヒ素対策に取り組むアジア砒素ネットワークと連携している。

第2弾「NGO×開発コンサルタント」

事例①（草の根技術協力プロジェクト）

- ・NGO側：NPO法人CWS Japan
- ・開発コンサルタント側：国土防災技術株式会社

「インドネシアにおけるコミュニティ災害レジリエンス向上」

洪水などの災害が頻発するインドネシアの地方部にて、コミュニティ、行政、NGO、企業の連携を強化し、災害リスク管理と地域の災害レジリエンス向上を目指す取り組み。CWSが実施中のJICA草の根技術協力事業の業務従事者として国土防災技術社のコンサルタントが参画している。

事例②（技術協力プロジェクト）

- ・NGO側：NPO法人ワールド・ビジョン・ジャパン
- ・開発コンサルタント側：アイ・シー・ネット株式会社

「ジェンダーに基づく暴力被害当事者の経済的自立促進プロジェクト」

南スーダンにおいて、政府・市民社会・民間企業の能力強化と連携促進を通じ、Gender-Based Violence (GBV) 対応を強化し、サバイバーや暴力に脆弱な女性の経済的自立と社会復帰を支援する事業。アイ・シー・ネット社が実施中のJICA技術協力プロジェクトにて、ワールド・ビジョン・ジャパンと連携している。

○当日の流れ（予定）

- ・事例発表（複数登壇者）
- ・質問タイム

※終了後、希望者を対象とした講師との交流時間を予定しています。（30分程度）

○申込方法

下記申込フォームよりお申込みください。

【申込締切】

- 第1回 NGO×大学研究機関：2026年2月16日（月）12:00
- 第2回 NGO×開発コンサルタント：2026年3月4日（水）12:00

申込フォーム

<https://forms.office.com/r/JKZsXZ3aSW>

※開催日前日までに、会議リンクをメールにてご案内します。

○問い合わせ先

独立行政法人国際協力機構 国内事業部市民参加推進課

メール：tatpp@jica.go.jp

○参考リンク

[NGOとの定期会合 | 事業について - JICA](#)